

## 杏林大学医学部解剖学教室解剖実習に献体を提供いただいた

## 患者さんの診療情報を用いた研究に対するご協力のお願い

研究責任者

所属 耳鼻咽喉科学

職名 教授

氏名 齋藤 康一郎

連絡先電話番号 0422-47-5511

このたび当院では、杏林大学医学部解剖学教室解剖実習に献体を提供いただいた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、文末の問い合わせ先までご連絡をお願いします。

### 1 対象となる方

平成 30 年度以降、杏林大学医学部解剖学教室解剖実習に献体を提供していただいた方。本研究への協力を望まれない方、およびそのご家族の方はお申し出ください。

### 2 研究課題名

「頭頸部の肉眼解剖および形態計測に関する検討」

### 3 研究実施機関

杏林大学医学部耳鼻咽喉科学・解剖学

### 4 本研究の意義、目的、方法

頭頸部領域には呼吸、発声、構音、咀嚼、嚥下といった日常生活における重要な機能を司る器官が集中しています。頭頸部領域の炎症、外傷、癌などの疾患に対して外科的治療を行う場合に、周囲には神経や血管などの重要臓器も存在するために、機能障害などの合併症が起こることがあります。しかし、頸部の肉眼解剖を熟知していることで、このような不必要な合併症を軽減できると考えられます。

特に緊急に処置が必要な呼吸に関しては、いわゆる経口的に行う気管内挿管以外に外科的な気道確保が行われます。この外科的な気道確保には、頸部から輪状甲状靭帯（膜）部分を穿刺・切開する

方法と、気管部分を切開あるいは穿刺して気道を確保する方法があります。この部分には重要な神経や血管が存在することは比較的少なく安全な部分とされておりますが、頻度の高い合併症として術後の出血があり、過去には出血により死亡した患者の報告があります。

このような気道確保に重要な解剖に代表される頸部手術に際して重要な、頸部の筋肉・神経・血管の走行などの肉眼解剖を再確認するとともに、各部位の大きさや形状を計測することで、より安全な施術につながり、気道確保にする気管カニューレのサイズ選択などにも有用となると考えています。

## 5 協力をお願いする内容

頸部の手術に必要な解剖情報を解析する試料として献体の頸部を利用すること。

## 6 本研究の実施期間

承認日～2025年3月31日（予定）

## 7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、年齢・性別と疾患名のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。医学部倫理委員会に承認された廃棄方法で完全に抹消します。

## 8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

氏名：齋藤 康一郎

所属：杏林大学医学部耳鼻咽喉科学

連絡先：0422-47-5511

F A X：0422-42-5968

対応する時間帯：平日午前9時から午後5時まで。ただし当病院の休診日を除く。また、診療中、手術中などの理由で対応できない場合には、後日のお問い合わせをお願いさせていただきます。

以上